

授業に関するアンケート（2018 年度秋学期・学部） 実施結果に対する授業評価報告

- ・授業アンケート結果の数値や「教員コメント」に基づいて、学科等の総括を概ね 4 ページ以内でご記入ください。
- ・原則として、すべての項目にご記入ください。
- ・可能な限り、箇条書きでご記入ください。

学科等
音楽学科

（1）授業実施に関する質問結果について

1. 授業内容はシラバスに合っていましたか。
ほぼ全学科で肯定的な回答は得られていた。
2. 受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。
受講生の能力に応じて細かくクラス分けし、理解度を高める努力をしている「和声」「ソルフェージュ」は、改善されている。 しかし、「コンピュータ活用」「音楽通史」などには否定的な回答は未だ見られる。今後の改善を望む。
3. 授業レベルは自分に合っていましたか。
ほぼ全学科で肯定的な回答は得られるようになってきた。 しかし、資格取得の目的で受講した「コンピュータ活用」は否定的な回答が未だあり、その原因を担当教員は再確認し改善できるよう努力していただきたい。
4. 教員からの一方向的な授業ではなく、教員と受講生又は受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。
実技を伴う演習科目は、双方のやりとりによって成り立つ科目のため、双方向性はかなり活発に行われていた。 一方、理論講義系科目については、科目内容の性格上、双方向性は取りにくく、今後の改善を目指し授業運営を見直していきたい。
5. 提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナーでのコメント、チェック後の返却など）は効果的に行われていましたか。
全体的に見て以前よりも改善されているようである。
6. 言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。
未だ「和声法」の一部の授業や「音楽心理学」には否定的な回答が多くあり、改善の努力が必要である。
7. 自主学習を促す工夫がなされていましたか。
以前よりは改善されてきているように見受けられる。 今後も教員が引き続き努力すべきであるが、「わからない」の回答を選択する学生の意識を変えることも大切であると考え。
8. 工夫してほしいと思ったことを選んでください（複数選択可、なしも可）。
パワーポイントの使用を要求する回答が多く見られているが、授業の内容上使用できないものにまで要求することは、学生の認識不足とも考えられる。

（2）この授業の学修行動に関する質問結果について

9. この授業の予習、復習、自主学習に 1 週当たり平均どれくらいの時間をかけましたか。
※学内外を問わず授業に間接的に関係のある学習を含む。ただし、授業時間は除く。
予め与えられた課題を練習し、その成果を見てもらう実技を伴う演習系の科目と、それ以外の講義系の科目では、どうしても自主学習時間の差が生じてしまう。 講義系科目においても、学習意欲を刺激する工夫を今後も考えていきたい。

10. あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしたりしましたか。
授業内容だけでなく、受講する学生の性格的な面の影響によって授業への参加が消極的になるとも考えられるので、まずは意見を述べやすいクラスの環境作りなどにも配慮していきたい。
11. あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習を更に深めたいですか。
全体的に肯定的な回答が多く見受けられるが、今後も一層努力していきたい。
12. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか（複数選択可）。
必修科目は当然であるが、授業内容に高く評価されていることは喜ばしいことである。 今後も努力していきたい。

(3) この授業の到達目標に関する質問結果について

13. 到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。
未だに一部の科目に否定的回答があり、今後の改善努力が必要である。
14. あなたは到達目標を達成できたと思いますか。
目標達成の感じ方に個人差があるように見受けられる。 特に「わからない」の回答については、13 の回答と同じく、学びに対しての意識が希薄な学生が少なからず存在していると気づかされる。今後はそのような学生に対しても、学習意欲を向上させる刺激を与え、学びの喜びを少しでも感じてもらえるように努力すべきである。
15. DWCLA10 の内、この授業の履修を通してその獲得や向上に役立ったと感じられるものをすべて選んでください（複数選択可、なしも可）。
「分析力」は増えたようだが「思考力」には結びついていない。また、「創造力」はあるようだが「プレゼンテーション力」や「コミュニケーション力」には結びつかないというように、それぞれの能力は単体で存在しているのではなく、総合的にみて、それぞれの能力は互いに作用し合って人間の成長を促すと考えている。 音楽学科では、講義系科目と実技演習科目がありその内容は多種多様である。学生にとって一見異なった科目のように捉えられがちであるが、これらを学習することにより学生自身が DWCA10 の能力を自覚し、今後の人間形成に役立ててほしいという教員側の意図があることを授業内でも伝えていきたい。

(4) その他

特になし。
